



4月に始まった1学期も、もうすぐ終わります。この4ヶ月間、子どもたちは新型コロナウイルス感染症の影響にも負けず、学習や部活動に対して前向きに、そして熱心に励んでいました。6月24日(木)に実施された体育の授業発表会では、昨年度実施できなかった体育祭に対する思いを3年生を中心に存分に発揮し、すばらしい発表会となりました。海田中生徒の成長の歩みが着実に進んでいることを実感しました。これから迎える夏休みに、1学期の様子をぜひとも聞いてみてください。

さて、1学期末の三者懇談では、通知表をお渡しします。今年度から通知表に記載する評価の観点点が4つから3つに変更されました。そこで、通知表をお渡しする前に、主に各教科の学習の記録に関する通知表の見方を紹介します。

### ◎各教科の学習の記録欄

教科	評価の観点	1学期		2学期		3学期		学年	
		評価	評定	評価	評定	評価	評定	評価	評定
国語	知識・技能	A	5						
	思考・判断・表現	A							
	主体的に学習に取り組む態度	A							
社会	知識・技能	A	4						
	思考・判断・表現	A							
	主体的に学習に取り組む態度	A							
数学	知識・技能	A	4						
	思考・判断・表現	A							
	主体的に学習に取り組む態度	B							
理科	知識・技能	B	3						
	思考・判断・表現	A							
	主体的に学習に取り組む態度	A							
音楽	知識・技能	A	3						
	思考・判断・表現	B							
	主体的に学習に取り組む態度	B							
美術	知識・技能	B	3						
	思考・判断・表現	B							
	主体的に学習に取り組む態度	B							
保健体育	知識・技能	C	3						
	思考・判断・表現	B							
	主体的に学習に取り組む態度	B							
技術・家庭	知識・技能	C	2						
	思考・判断・表現	B							
	主体的に学習に取り組む態度	C							
英語	知識・技能	C	2						
	思考・判断・表現	C							
	主体的に学習に取り組む態度	C							

**【評価の観点の変更】**  
 今年度から全教科の評価の観点が次のように統一されました。  
 「知識・技能」  
 「思考・判断・表現」  
 「主体的に学習に取り組む態度」  
 それぞれの観定の割合は1:1:1になります。  
 ※昨年度までは、4観点あり、教科によって観定の文言が違っていました。

評価(A~C)と評定(5~1)は様々なパターン(AAAで5, AABで4など)を入れています。見方については右ページをご覧ください。

## ◎通知表の見方欄

	観点別学習状況の評価	分岐点の目安達成状況	評 定		分岐点の目安達成状況
A	十分満足できると判断されるもの	80%以上～100%	十分満足できると判断されるものうち、特に高い程度のもの	5	90%以上～100%
			十分満足できると判断されるもの	4	80%以上～90%未満
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上～80%未満	おおむね満足できると判断されるもの	3	50%以上～80%未満
C	努力を要すると判断されるもの	0%以上～50%未満	努力を要すると判断されるもの	2	20%以上～50%未満
			一層努力を要すると判断されるもの	1	0%以上～20%未満

評価の3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）はA～Cの3段階で評価されます。その3段階の評価を5段階評定に換算して5～1の評定を算出します。

ちなみに、それぞれの観点には評価材料が割り振られており、例えば「知識・技能」の観点であれば、その教科の知識的・技能的面を評価する材料が割り当てられています。

以下に、各観点の評価材料と評定の出し方の例を挙げていますので、御参考にしてください。

### ①各観点の評価材料と評価点（英語科の評価材料を参考に、仮の評価材料と評価点を作成）

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
・ 中間試験(50)	合計	・ 中間試験(50)	合計	学習の様子(40)	合計
・ 期末試験(50)	130	・ 期末試験(50)	130	小テスト等(40)	130
・ 小テスト等(20)		・ 小テスト等(20)		実技・作品(20)	
・ 実技・作品(20)		・ 実技・作品(20)		振り返り等(30)	

### ②評定の算出例

左の「各教科の学習の記録欄」には、例として評価（A～C）と評定（5～1）を記入しています。分かりにくいのは評価がAAAで評定が4（左図では社会）や評価がBAAで評定が3（左図では理科）ではないでしょうか。ここでは左図の社会のAAAがなぜ5ではなく4になるのかを説明します。

評価の3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）はそれぞれの観点の評価点の合計130点の80%以上がAとなります。つまり、104点以上がAとなります。仮に3観点すべてが104点となると、 $104 \times 3 = 312$ 点となります。

続いて評定についてです。評定で5になるには、 $130 \times 3$ （観点） $= 390$ 点の90%の351点以上が必要となります。3観点の総合計が312点であれば、90%の351点を超えないため、評定は5ではなく4となります。

観点	評価点／総点	評価	評価点の合計／観点の合計	評定
知識・技能	104／130	A	評価点 $104 \times 3 = 312$ 観点の合計 $130 \times 3 = 390$ 312／390	4
思考・判断・表現	104／130	A		
主体的に学習に取り組む態度	104／130	A		

130点の80% = 104なのでA

390点の80%～89%内に312が入るため、評定は4

このように、各観点には得点の幅があるため、このような評定が算定されることがあります。三者懇談の際の参考資料になれば幸いです。御不明な点があれば、いつでも御相談ください。